

# FISHIN'GRAPH

フィッシンググラフ～見て感じて楽しむ沖釣りライフ

## ③1 大分スタイルのライトな落とし込み ～大分県杵築市納屋漁港出船～



3キロほどのネリゴ（カンパチ）。大分の落とし込みはベイトがアジメインとなるため関東とも共通点が多い

サビキ仕掛けでウルメイワシなど小魚を掛けて、そのままエサとして大型魚に食わせる「落とし込み」の本場・九州にあつて、大分県は少々釣り方が異なる。

エサはウルメではなく主にアジ。9月を過ぎて野っ原（平たんな場所）でアジが釣れるようになるとシーズイン、瀬（浅場）に着いていたアジが水温の低下にともない深みへ移動するとターゲットも大型化、年末のブリ狙いでピークを迎え、翌春まで続く。

富所潤さんが大分県杵築市のSouya丸を訪れたのは10月初旬。例年なら深みの80〜100メートルでアジが釣れ始まり、ブリ、ヒラメ、カンパチ、オオニベなど大物の好期を迎えるはずが今年海水温が高く、いまだにアジが深場にいない。

三ヶ尻治明船長はまずは浅場、水深30メートル台の魚礁へ船を回し、アジらしき反応で投入台図を出す。



サビキにアジが掛かったら慎重に落とし込んで行く。海底は魚礁など



アジが上に泳いだ直後、オモリを持ち上げて勢いよく食い上げた主はヒラメ。大分でも人気魚だ



▲ヒラメは大きく竿をたたくような引きを見せた



◀勢いよく突っ走るのはガンド。関東で言うワラサにあたる



▲大分では年末、10キロ級のブリ狙いでの落とし込みが盛況となる



派手なアタリの後、なかなか食い込まないのはキジハタ



▲コマセを併用するのが大分スタイル ※コマセ釣りが許可されている海域で操業しています



▲当日は水深30メートル台の魚礁で小アジがよく掛かった



噛み跡の主はヒラメかハタか、それともオオニベだったのか……

▲アジがよく食うサビキは船長に聞くのが一番。ハリスは16~18号を使



波をかわしながら落とし込んでいく



探見丸を注視してアジの泳層で誘って掛ける



仕掛けに上部に付けたカメラにはオオニベらしきがアジを食い損ねる様子が記録されていた



コンパクトながら圧倒的なパワーと探見丸スクリーンなど情報力も備えるビーストマスター2000



【バンディット落し込みL215】

◎粘り強く強靱にして目感度にも優れる落とし込み専用ロッド。落とし込み釣りでの細部にわたるユーティリティと「細い仕掛けで大物を獲得」実釣力を持つ。◎SPEC (L215) 全長2.15m、継数2、仕舞寸法178.8cm、自重335g、オモリ負荷30-100号、カーボン含有率67.5%、価格5万9500円



▲オリジナルデザインアルミシートはリールとのフィット、締め込み感ともに確実で緩みにくい



◀リアグリップを長くすることで脇挟みでの操作性が向上。L215は側面にスライスを設けたデザインとなる

▲UDグラスをメインに、適所にカーボン素材を使用。スパイラルXコアとハイパワーXで締め上げたブランクス



船上の釣り人が描くイメージと、海中の魚たち。その2つが一致したとき、竿が絞り込まれる

釣り方はサビキ仕掛けの下に80号のアンドロビシを付け、コマセを振ってアジに擬餌バリエーションを食わせる。船長のアナウンスするタナと探見丸に映し出される反応を見ながら仕掛けを下ろし、誘い上げると、富所さんが手にする「バンディット落し込みL215」のしなやかな穂先が震えアジが付いたことを知らせる。すると間もなくバタバタと暴れ始めた。そして一瞬止まったかと思うと竿が「つ」の字を描いて激しく突っ込む。構わずパッドを持ち上げて合わせ、ビーストマスター2000で巻き上げを始めると竿はさらにタイトなカーブを描き、魚とのフアイトが始まる。上がってきたのはヤズ（ブリの子）。大きめの割によく引いたと感心しつつ魚をリリースすると、今度はやや弱いアタリからしつかり食い込ませることに成功。根に潜るような引きをかわして上げたのはキジハタだ。「おいしい魚ですね。次はヒラメが釣れたらいいですね」

そんな都合よく釣れるわけではないと思いきや、まるでアジを嘔き上げるようなダイナミックなアタリで食ってきたのは、なんとヒラメ。ほぼ空振りなしの出来過ぎな展開を楽しんだのち、船長は潮が緩むのを見計らって水深60〜100メートルの魚礁へ船を進める。ここでは魚礁の間を縫うように流す。再び潮が速くなるまでのわずかな

間、魚礁に着いているカンパチやワラサ、オオニベを狙う。すると、狙い通り明らかに重い、ゴンゴンと頭を振る、トルクフルな引きが訪れた。バンディット落し込みL215をこれでもかと曲げ、フアイトを存分に味わって浮かせたのは3キロほどのネリゴ（カンパチ）だった。「大分の落とし込みはベイトがアジで、コマセを使うところなど関東に通じる点が多くあって、とても参考になりました。オオニベが釣れなかったのは心残りですけど……」 後ろ髪を引かれる思いで大分を去る富所さん。ちなみに、仕掛けに付けた水中カメラには、小ぶりながらオオニベらしきがアジを追い、食い損ねる姿が記録されていたのだった。